

環境保全措置【植物】

- ・可能な限り既存道路等を活用することで、土地造成面積を必要最小限にとどめます。
- ・地形等を考慮し、風力発電機及び管理用道路の設置に伴う伐採量及び改変面積を低減します。
- ・改変区域外への工事関係者の必要以上の立ち入りを制限します。
- ・改変部分では必要に応じて土堤や素堀側溝を設置することにより、濁水の流出を防止します。
- ・風力発電機及び搬入路の敷設の際に掘削される土砂等に関しては、沈砂池等を設置することにより流出を防止し、必要以上の土地の改変を抑えます。
- ・工事車両が場内に入る際には、タイヤの洗浄等を行い、外来種の侵入を防ぎます。
- ・重要な種の生育環境の保全を基本としますが、計画上やむを得ない場合には対象事業実施区域周囲において、現在の生育地と同様な生育環境に移植することにより、個体群の保全を図ります。移植を実施する際には、移植方法及び移植先の選定等について専門家等の助言を踏まえて実施します。
- ・造成により生じた切盛法面は必要に応じて種子散布付け工などによる緑化を行うとともに、可能な限り造成時の表土等を活用し、現状の植生の早期回復を図ります。なお、緑化の際には、可能な限り対象事業実施区域及びその周囲に生育する種を用いるものとし、他地域の種の侵入を防ぎます。
- ・定期的に会議等を行い、環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底します。

本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

87

【動物・植物・生態系（工事中及び施設の存在）】 予測及び評価結果

【生態系】 工事中及び施設の存在による影響 ⇒実行可能な範囲内で回避、低減が図られているものと予測されます。

上位性注目種のクマタカ及び典型性注目種のカラ類の観点から生態系への影響予測を行った結果、いずれも影響は小さいものと予測します。

また、造成等の施工による一時的な影響、地形改変及び施設の存在並びに施設の稼働後においては、これらの環境保全措置を講じることにより、地域を特徴づける生態系への影響はさらに小さいものと考えられることから、実行可能な範囲内で回避、低減が図られているものと評価されます。

本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

88

環境保全措置【生態系】

- ・可能な限り既存道路等を活用することで、土地造成面積を必要最小限にとどめます。
- ・地形等を考慮し、風力発電機及び管理用道路の設置に伴う伐採量及び改変面積を低減します。
- ・道路脇等の路面側溝やのり面の小段側溝は、目荒しをした（表面をざらざらにした）緩やかなV字型水路やスロープを設置するなど、小動物の這い出しが容易なものを極力採用します。
- ・風力発電機間の送電線は既存道路沿いに極力地中埋設することとし、新設される管理道路沿いにおいても極力地中埋設します。
- ・工事関係車両の低速走行の励行により、工事関係車両への接触を防ぎます。
- ・工事にあたっては、可能な限り低騒音型の建設機械を使用します。
- ・改変区域外への工事関係者の必要以上の立ち入りを制限します。
- ・改変部分では必要に応じて土堤や素堀側溝を設置することにより、濁水の流出を防止します。
- ・風力発電機及び搬入路の敷設の際に掘削される土砂等に関しては、沈砂池等を設置することにより流出を防止し、必要以上の土地の改変を抑えます。
- ・造成により生じた切盛法面は必要に応じて種子散布付け工などによる緑化を行うとともに、可能な限り造成時の表土等を活用し、現状の植生の早期回復を図ります。
なお、緑化の際には、可能な限り対象事業実施区域及びその周囲に生育する種を用いるものとし、他地域の種の侵入を防ぎます。
- ・定期的に会議等を行い、環境保全措置の内容について工事関係者に周知徹底します。

本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

89

◆ 景観（施設の存在）

本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

90

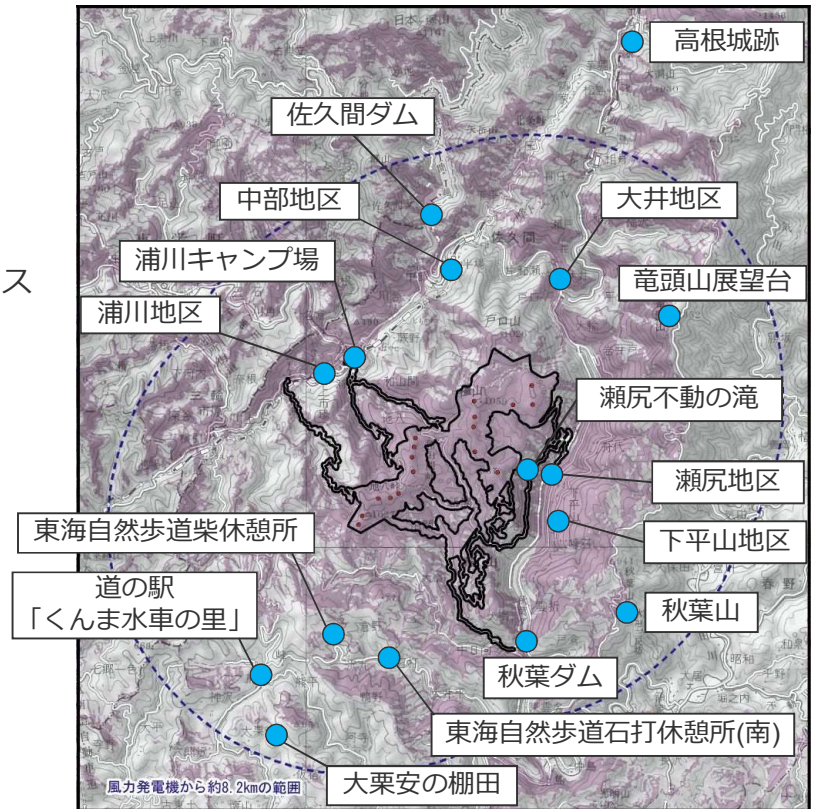
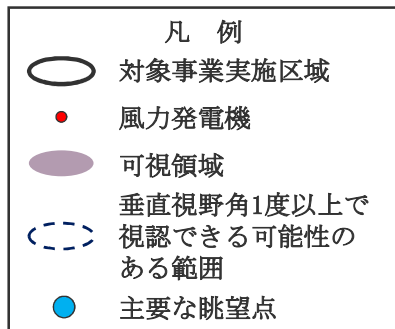
【景観（施設の存在）】 調査及び予測地点

調査地点

右図の16地点で実施しました。

備考 各地区の調査地点

- ・浦川地区 : 上市場区民館
- ・中部地区 : 中部橋
- ・大井地区 : 山香ふれあいセンター
- ・瀬尻地区 : 龍山北市民文化サービスセンター
- ・下平山地区 : 下平山農村公園



本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

【景観（施設の存在）】 調査及び予測の内容

調査内容

可視となった8地点の写真を示します。風力発電機が見えるあたりを赤枠で示しています。

佐久間ダム



浦川キャンプ村
〔南東方向〕



本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

【景観（施設の存在）】 調査及び予測の内容

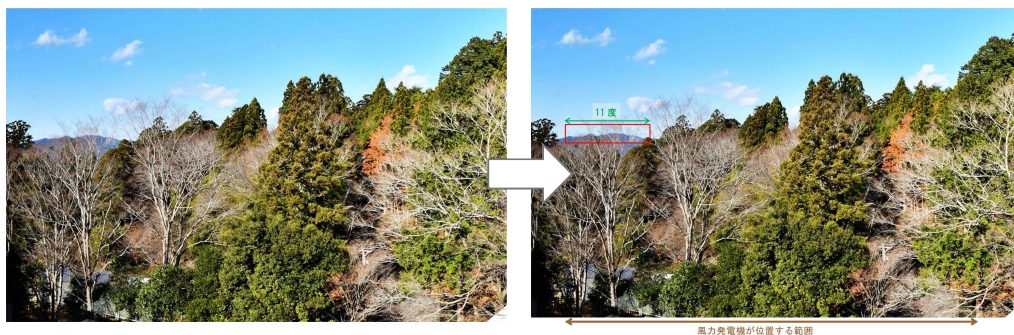
調査内容

可視となった8地点の写真を示します。風力発電機が見えるあたりを赤枠で示しています。

竜頭山展望台



秋葉山



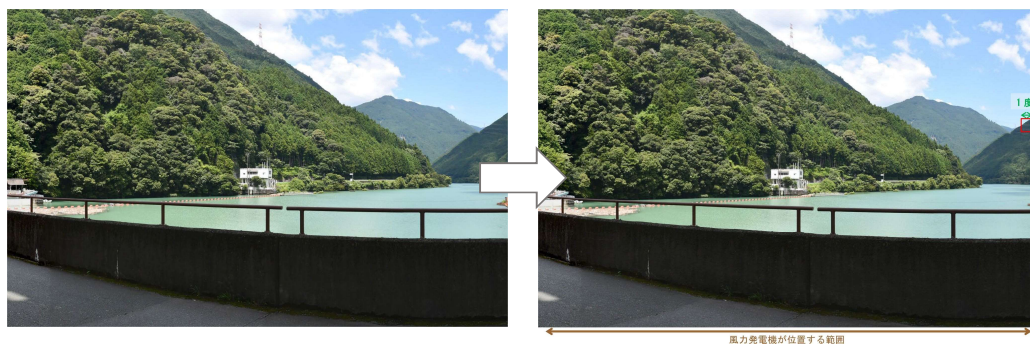
本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

【景観（施設の存在）】 調査及び予測の内容

調査内容

可視となった8地点の写真を示します。風力発電機が見えるあたりを赤枠で示しています。

秋葉ダム



浦川地区
〔東方向〕



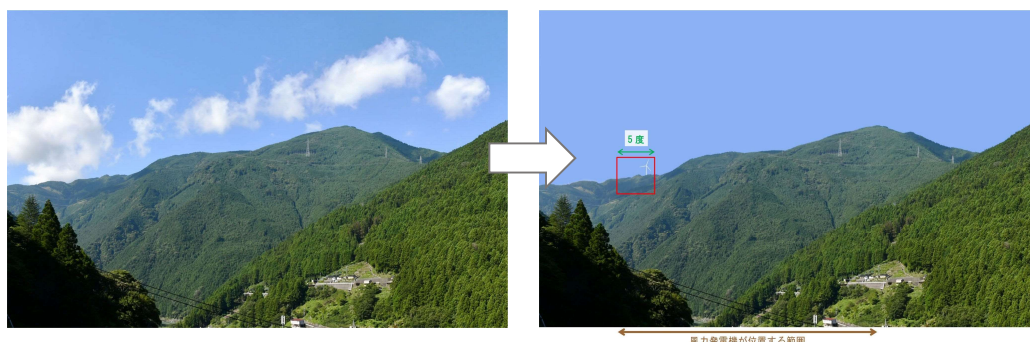
本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

【景観（施設の存在）】 調査及び予測の内容

調査内容

可視となった8地点の写真を示します。風力発電機が見えるあたりを赤枠で示しています。

大井地区



下平山地区
〔北方向〕



本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

【景観（施設の存在）】 予測及び評価結果

施設の存在による影響

予測地点16箇所のうち、風車の認識できる可能性のある地点は、以下の8箇所です。

佐久間ダム堰堤、浦川キャンプ村、
竜頭山展望台、秋葉山、秋葉ダム、
浦川地区、大井地区、下平山地区

これ以外の地点からは、フォトモンタージュにおいて不可視となりました。

可視となった地点においても、環境保全措置を講じることにより、眺望景観に係る影響は、実行可能な範囲で低減が図られているものと評価します。

予測地点	最大垂直視野角
佐久間ダム	1.7度
浦川キャンプ村	1.0度
高根城跡	×
竜頭山展望台	1.5度
瀬尻不動の滝（不動橋）	×
秋葉山	0.9度
秋葉ダム	0.5度
東海自然歩道石打休憩所（南）	×
東海自然歩道柴休憩所	×
道の駅「くんま水車の里」	×
大栗安の棚田	×
浦川地区	1.4度
中部地区	×
大井地区	2.1度
瀬尻地区	×
下平山地区	1.9度

注：「×」は不可視を示します。

本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

環境保全措置

- ・ 風力発電機の塗装は、「国立・国定公園における風力発電施設の審査に関する技術的ガイドライン」（環境省、平成25年）では、複数の学術的な研究結果をもとに「背景が空、水面等の場合は、灰色等の無彩色がなじみやすい。」とされており、また同資料において掲載されている色彩の違いによる風力発電施設の調和効果のシミュレーション結果を参考に、周囲の環境になじみやすいような環境融和色とします。
- ・ 地形及び樹木等による遮蔽状況を考慮した風力発電機の配置とします。
- ・ 主要な眺望点の眺望方向及び眺望対象を考慮した風力発電機の配置とします。
- ・ 樹木の伐採量及び改変面積を低減するとともに、造成により生じた切盛法面は必要に応じて散布吹付け工などによる早期緑化を行い、修景を図ります。
- ・ 航空障害灯は、航空法の規定内において必要最低限の設置とし、下方への照射を防ぐカバーを取り付けます。

◆人と自然との触れ合いの活動の場 （工事・施設の存在）

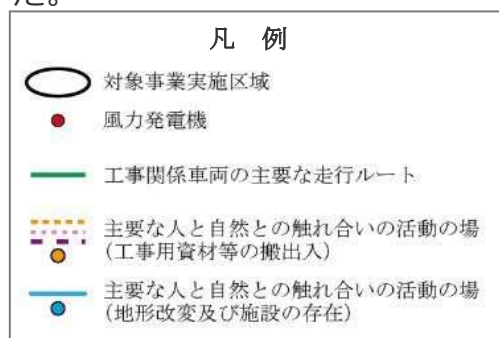


調査内容

文献調査及び聞き取りによる利用の状況及び現地踏査による登山ルート of 状況を把握しました。

予測内容

工事関係車両の走行によるアクセスへの影響や風力発電機建設前後での利用状況の変化を予測しました。



工事用資材等の搬出入・施設の存在による影響

- 人と自然との触れ合いの活動の場に一部重複する道路やアクセスルートにあたる道路の交通増加量は、工事関係車両の交通量が最大となる日の最大となる地点でも約1.20倍と予測されます。
- 風力発電機との離隔距離が確保されており、主要な人と自然との触れ合い活動の場から風力発電機は視認されません。

環境保全措置

- 関係機関等に随時確認し、イベント等により工事関係車両の主要な走行ルートにアクセスが集中する可能性のある場合には、開催日の該当区間における工事関係車両の走行を可能な限り控える等、配慮します。
- 現地看板を通じて工事のお知らせをする等、工事について周知すると共に誘導員を配置し、注意喚起に努めます。
- 風力発電機は主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している地点から可能な限り離隔した配置計画とします。

上記の環境保全措置を講じることにより各地点の現況の利用は阻害されないことから、主要な人と自然との触れ合いの活動の場に関する影響は、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価します。

◆廃棄物、残土（工事中）

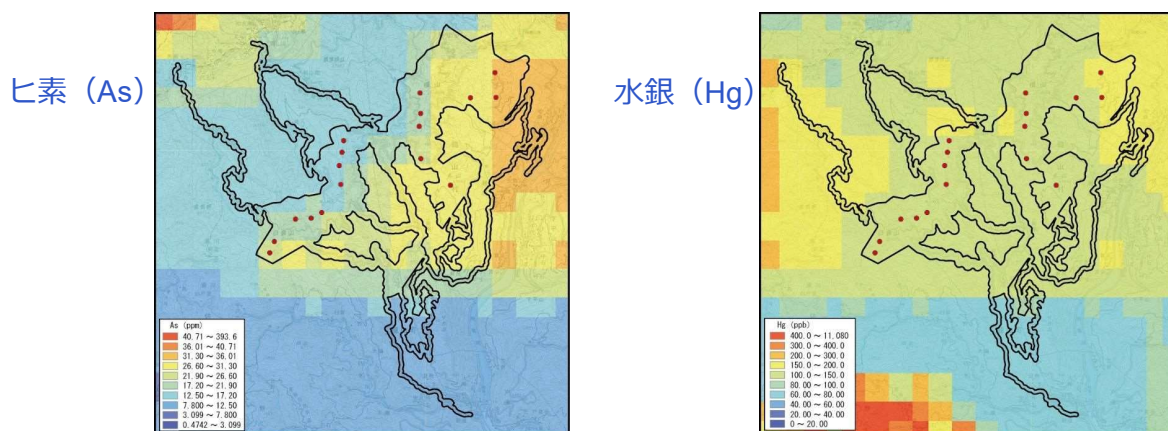
本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

101

【廃棄物、残土（工事中）】調査及び予測の内容

調査内容

現状の土壌の状況（金属成分濃度分布）を文献調査により把握しました。



金属成分(5元素)について調査した結果、例示のとおりヒ素及び水銀の濃度がやや高めですが、土壌汚染対策法に記載の土壌含有量基準に比べ1/4以下の濃度でした。なお、対象事業実施区域は土壌汚染対策法における要措置地区域には該当していません。

本文書は、弊社の同意なく、HP、SNS等への投稿、掲載はご遠慮ください。

102

建設工事による影響 ⇒産業廃棄物及び発生土は、実行可能な範囲で低減が図られていると評価されます。

工事に伴い発生する産業廃棄物の種類及び量 (単位：t)

種類	発生量	有効利用量	処分量	有効利用の方法
コンクリートくず	1,171	1,171	0	再生砕石原料
木くず（型枠・丁張残材）	20.0	20.0	0	チップ化して、リサイクル
廃プラスチック類	24.6	24.6	0	分別回収し、リサイクル
金属くず	21.4	21.4	0	業者へ売却、古物商へ引き渡し
紙くず（段ボール）	8.2	8.2	0	分別回収し、リサイクル
アスファルト殻	468	468	0	中間処理方法：処理場破碎
伐採木	15,081	15,081	0	幹は有用材として売却、枝はチップ化して、リサイクル

工事に伴い発生する土量

工事種類		計画土量※
発生土	切土工（構内敷均、ヤード造成）	624千m ³
	掘削工（風力発電機基礎）	21千m ³
利用土	盛土工（構内敷均、ヤード造成）	77千m ³
	盛土工（発生土流用盛土）	569千m ³
残土		0千m ³

注：四捨五入の関係により、発生土の合計と利用土の合計は一致しません。

環境保全措置

- 産業廃棄物は可能な限り有効利用に努め、処分量を低減します。
- 分別収集、再利用が困難な産業廃棄物は、専門の優良産廃処理業者に委託し、適正に処理します。
- 地形等を考慮し、可能な限り伐採量及び土地造成面積を低減します。
- 切土、掘削工事に伴う発生土は、可能な限り埋め戻し、盛土及び敷き均しに利用し、原則として対象事業実施区域ですべて処理することで、対象事業実施区域外への搬出は行わない計画とします。